

平成 25 年度 第 5 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

【日時】平成 26 年 3 月 24 日（月）午前 10 時 00 分～午前 11 時 50 分

【場所】市役所 5 階 501 会議室

【出席者】

〈河内長野市文化振興計画推進委員会委員〉

末延 國康・浅尾 広良・荒川 透・来村 多加史・栗本 智代・中道 厚子・長山 公一・

中脇 健児・寶楽 陸寛・水落 学・安福 迪子

〈事務局（河内長野市教育委員会事務局ふるさと文化課）〉

大江・井上・東畑

【配布資料】

- ・平成 25 年度 第 5 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 次第
- ・資料 1 平成 25 年度 第 4 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

以上

末延委員長

今日の全体の流れを先に説明します。前回、3つのグループに分かれまとめた意見を具体的にしていきたいと思う。今後は本日の第5回目で座標軸をまとめ、5月に調査内容と評価の検討を行う。特に座標軸を決めることが一番大事。ソフト・ハードの面という観点から具体的にしていきたい。7月予定の評価については我々が座標軸を決めたものについて我々委員が評価する。そこから諮問し、一般市民対象の外に向けて評価を検討する。今日は7月に向けての評価軸を検討する。

前回の意見をどの様にまとめるかは、Cグループのようにグラフにまとめていくのが1つの案と思う。5つ6つの領域に分け、それをいくつかの設問に分けると具体的で分かりやすい。A・Bグループの案も当てはめると、重なる部分と重ならない部分、新たに付け加える部分なども出てくるが、今日はそういう作業をやっていただこうと思う。Cグループの荒川委員からまとめた経緯、方法論を説明していただきたい。

荒川委員

Cグループでは最初にキーワードを探り、最終的に8つに絞った。実際に評価する事業によっては必要なものもあるが、そういったことは度外視してキーワードだけを出した。続いて、このキーワードに沿っていくつかの設問を作り、各キーワードについて評価・点数化を行う。5点満点位での評価が良いかと思いレーダーチャートにした。各設問は、「大変良い」「ある程度良い」「そうでもない」「どちらともいえない」等といった5段階に分けることが多いが、2段階の方が良いと思い、設問をyes・noで答えることとした。

具体的に8つのキーワードだが、まず「理念」。方向性や事業の在り方などに関わってくるため当然必要。次に、「持続性」。有意義で、必要性が高いものと考えられる。次に、「収益」と「稼働」。2つに分けたのは営利目的なら当然収益が重要になり、営利目的でないものでも稼働しているかどうか、どの程度の人を集めることができたかは評価になる。続いて、「認知」はどの程度広範の人に広報され知られているか、逆に知らない人にいかに知らせるかが問題になると思い、認知にどれだけの努力を行っているかが評価の一つになると考え選んだ。「満足」は参加者にどれだけ満足を与えられたか。また、それとは別に文化事業なので「福祉」、「教育」。これは重なる部分と独立する部分があるので分けている。独立した方が良いか、一緒にした方が良いかは検討の余地がある。

来村委員

ラブリーホールを評価するにはどういう要素が必要か想定した。以前見学して、レーダーチャートで今どの程度の評価になるのかを実験的に行った結果です。理屈でしっかりと5段階評価しなければならないが、評価軸の要素をまとめ、追加するのが今日の作業だと思う。後はいかに合理的に数値化するかがポイントだと思う。

末延委員長

まずラブリーホールで評価し、領域・設問については一般市民対象アンケートのときにどのように当てはまるか、あるいはもっと必要なもの、削除するもの等もう一度評価軸を

作り直していきたい。

来村委員

今見ていると、補助金などここに無いものが入っているので先に必要・不必要なのかを話したい。また、レーダーチャートについてA・Bグループの方に意見をいただきたい。

中協委員

これはハード関連ではなくソフト事業を見るということですか？

来村委員

そうですね。

中協委員

では、貸館とかは。

来村委員

事業の評価になると思う。

中協委員

稼働率というのはどうか。

来村委員

これは以前の見学で財団の担当者が一番気にされていたところだと思う。「うち稼働率高いですよ」という話をいただいた。努力しているのがよく分かった。

末延委員長

例えば、収益は、ラブリーホール対象ならある程度該当するかもしれない。一般市民向けになったときには収益は薄いものになりますね。

中協委員

収益が上がっていれば持続できると思うが、他に持続の要素とはどういうものか。

来村委員

1つ1つの事業を継続的に出せていけるのかという視点も入れておかなければならない。

来村委員

教育に繋がるが、子供たち対象の事業を行っていたと思うが、1年、2年で終わってしまうと持続性がないということになる。収益とも関係するがモチベーションをいかに保つかということだと思う。

中協委員

行政では予算がつけば持続できる。賛同者や協力者の存在や、もしくは市民参加という視点も必要と思う。

来村委員

持続を市民参加に変えるのか、あるいはただ単に8つを9つにするということなのか。ただ、5段階評価するとき収益と混ざらないようにきちんとした視点を持つべき。

中道委員

Aグループで同様に思っていたが、収益を自立という言葉に置き換え、さらに、その自立性を基に、他の市民に対して貢献度を考えた活動に取り組んでいるかどうかを、持続の

ところで発展や他の市民への貢献という言葉へ置き換えると収まると思う。

末延委員長

A グループで話したとき、左側の市民参加型や子供主体など次世代に関する話が出た。要するに、育てていくという事が文化の大事なところではないかと思う。

来村委員

確かにそうですね。これは認知度とは違う。参加率・参加度を出せるかは大事。

中脇委員

トライアルするとき、持続はそこまで認識を広げてよろしいですか。あと、理念とは芸術性みたいな感じと思う。ラブリールホールの事業の理念といえば文化事業をどういう思いで実施するかということ。娯楽性の高いものから芸術性の高いものという文化施策をストレートに実現しているのかどうかということ。

荒川委員

理念は事業を運営する上で絶対必要なもので、これがないとどういう方向に持っていくかが分からなくなる。

宝楽委員

理念にも関わると思うが、市民文化を育てるという視点は評価しなくてよいのか。ハード面では施設のチェックで済むが、文化振興計画では、市民がどう文化を享受でき、どう楽しめるのかという点も大事だと思う。よって、このレーダーチャートの先にある計画に盛り込むべき事項も分かりやすく出せた方が良いのでは。収益・稼働・持続性・理念は施設のプレイヤーとしてイメージできるが、満足・認知・教育・福祉はこのままだと文化は全部受けるもので、自分達がやるという所を表現できないのでは。市民が動かなければならないという視点が盛り込めるレーダーチャートとなれば市民文化を育てる今の市民協働社会に投げかけることができるのでは。

中脇委員

持続に入るのでは。

宝楽委員

分かりやすく市民協働という言葉が出てきたほうが今の時代に合っている。

来村委員

それは市民がいかにラブリールホールを使っているかという度合いですか。

宝楽委員

そこにも入ると思っていたが、満足度・稼働に、楽しむ人とやっている人が混合されてしまうのではないか。

宝楽委員

稼働というのは難しい。ソフトで言えば集客数か。

栗本委員

今回文化振興という視点でいうと、ラブリールホールを主とした事業という考え方の切り口だけでは全体の半分くらいで、文化活動や教育福祉というその事業以外のボランティア

や大学・企業との連携による育成という部分が見えづらい。大学も近くにあり、幼少教育の場も高齢者もいるので、そういう所での新しい部分も評価するのであれば、評価は悪いがこれから頑張るという方向性が上がるかと思うので、もう少し味付けしたらどうか。

末延委員長

宝楽委員がいう子供の立場に立ってどういう事業に関わっていくかということも評価の中に入れていく、あるいは事業の中に組み込んでいく。あと B グループ。

浅尾委員

ラブリーホールでは、現文化振興計画をどのように実現しているかを評価しなければならない。そうすると行動と成果に対する評価が別々に必要となる。

宝楽委員

前回の B グループでは先ほど言った 5 つの目標をきちんとチェックした方がよいのではないかと話した。キーワード化しようと思ってもばらばらで広範囲に渡ってしまう。目標に対してそれぞれ 15 個くらいの目的を評価したらいいのではないか。ただ、チェックする時に出てくるべき視点は、河内長野は高齢者がこれからたくさん増え地域の課題になることから、その活力が見えるようになれば良いと思う。あと絶対切っても切り離せない生涯学習領域に関わることを評価軸にいれたほうがいいのではないかという話が出た。

宝楽委員

福祉教育を育てるという視点を入れると、大学・行政・企業との協働、市民参加をどう評価するか、どこに組み込むかという議論をしたほうがよいのでは。

中協委員

行動評価と成果評価を分けるのは良いと思う。理念にチャレンジしているかどうか分かるので、若手・実行部隊のモチベーションがキープされるのでは。

末延委員長

今のことを踏まえてグループで議論し、領域をまとめていただきたいと思う。

< グループに分かれて、評価軸について話し合う >

末延委員長

ご苦勞様でした。それぞれのグループでの話し合いを手短にご説明いただいて協議したいと思います。B グループから。

宝楽委員

私たちのグループはまだレーダーチャートに落とし込めていない。話し合い資料を配っているが、右側は H24 年度分ラブリーホールの事業を上から見ていき、出た意見が書いてある。左側が各項目についての意見が書いてある。

まず、評価軸としては左側の下に二つ書いてある項目を足したほうがよいのでは。1 つは「市民参加」。例えば、マイタウンオペラやアウトリーチなどが評価できないため。もう 1 つは「企画力」。例えば、芸術家育成事業においてロビーコンサートで新人歌手に機会を

与えるというのがあるが、それほど固定費もかからずに未来のアーティストを育成できるという点では企画力を持っている。そういうものを評価できないと思い、加えたほうがよいのではという話があった。収益・稼働・満足の指標をざっくりと評価するのではなく、例えば収益なら収益の中にさらに小設問が 5 問くらいあった方が良いと思う。例えばホールの客席が埋まっている率が毎回 70 パーセントを超えているなら 5 点など。さらに、収益の中にある項目の平均点が、収益点となっても良いと思う。これが入れば細かく分析できるのではないか。

末延委員長

ありがとうございます。では、Cグループ。

来村委員

どう数値化するかを話し合った。収益・稼働はホールで数値化しているのでそれを使う。満足は観客の満足ということから会場アンケート等で測る。認知度は分母を市民とし、市民の中でどれほど認知されているかをまちかどアンケートで調査する。教育については、学校教育がホールをどれほど使っているかという使用度で測れば良い。アウトリーチは、ホールの方から学校教育にどう働きかけているかも加味しながら数値化する。福祉も学校教育と同様に数値化する。この場合に大事なのは他市のホールの数値を参考として知らないとその回数をどう評価してよいか分からない。よって、他の施設との比較で 5 段階評価すればどうか。理念についてはどれほどしっかり理念を持っているか。これは我々文化事業に携わる者が行うことで、委員が評価することになった。持続性については、ホールの中に文化連盟が使用している部屋があり、文化連盟が市民の事業を担当しているので、それにホールがどれほど貢献しているかで測る。一発の大きいものではなく、細々と続いている事業が多くあるので、これにいかに関与しているのかを測ろうと考えた。

荒川委員

アンケートに関してはすぐにはできないが、他は私達で一応できるのではということになった。

末延委員長

ありがとうございます。それでは A グループ。

中脇委員

採点をとりあえず主観的に行った。個別評価はできないし設問だけが独立してはいけないと考え、使ったのは別紙のとおり縦軸、横軸表になっているホールが設定している創造発信事業や教室運営事業といった区分を、理念・持続・収益・稼働・満足・認知・教育・福祉の項目で、○△×で採点した。前提条件として、それぞれの事業で理念や持続などに◎が 1 個でもあれば付加価値的には良いとする。トータルでそれが全体で 1 個でもあればベストとする設定。なおかつ創造発信事業や教室運営事業などにそれぞれ◎が分かっていると更に良いと思う。結果、足りない○△×があるのは課題で、吹き出しなどでやったらいいのでは。

ざっくりとやったものをチャートに落とし込んでみた。◎がそれぞれの項目に増えてい

ればよりOK。その他意見として、仕組みや循環がある。この評価を行って思ったのが、それぞれの項目が独立しすぎているが故に持続的に、トータル的に上手く運営できているかどうか非常に見にくい。仕組みをどうしているか、例えば、アウトリーチをしてそれをどこにもってきて、育成させ、育成させた先のゴール出口戦略がステージ上なのか、学校・福祉なのかそういった戦略めいたところにまで問いかけたい。教育、福祉が元々縦割り構造なので弱いのは仕方ないが、持続の仕組みの部分があまりにも見えない。ラブリーホールについてはそれを見えるようにすることと、特に芸術家を育成した先の出口戦略めいた計画が見えないのが課題と思う。土台となる収益や認知度が上がるようにし一定の評価がいいものを、きちんと収益と市民理解を行った上で弱い部分に投資していくことが必要と思う。

末延委員長

特に強調するのは、循環すること。前は点、線、面、という表現をしたがそれを循環させる。例えば、ロビーコンサートやアウトリーチ事業にしてもやりっ放しではなく、どのように繋がっていくかということが、今後の指導者・子供たちが育つ要素になると討議した。

中協委員

この座標軸では項目ごとの関連性や事業の仕組みが見えない。ここを見えるような評価の基準や添付資料を付けることが必要。A4一枚チャートで出すなど。

末延委員長

3つのことを聞いてみたが、いかがか。大体方向性がでてきたのではないか。

来村委員

評価をどう使用するかをきちんとしておかなければならないという議論があった。ラブリーホールを持続させるのかどうかの評価に使用されるのであればいかなものかと。これはここが良いという評価よりも、凹んでいるところを抽出するための評価にしよう。凹んでいるところは大概ラブリーホールだけでできないところだと思う。それをいかに補っていくかという方向性をもたせるための評価なら良い。委員会としてどういう形で使うつもりでいるか明確にさせたい。

中協委員

本来これはホールが甘くてもいいから自己理解し、ホールが戦略を練るほうがベスト。もしくは行政が理解するのであれば、縦割りの中で勇気をもって他部署との連携を図っていただく。現場と行政ができることについて歯車を噛み合わせていただく必要がある。

末延委員長

第1回目の時に事務方が言ったと思うが、悪いところを云々ではなく、進めていく上でどうあるべきかをコンセプトにやると言った。今、来村委員が言ったように凹んでいる部分をどう膨らめますか、膨らますときに市民にどう還元しているか、市民とどう関わりがあるかということが我々の大事なところだと思う。あくまで、事業をやってそれで終わりではなく、市民目線・子供目線から見たときにやっていることが果たしてどうなのかという

ことが議論された方がよいと思う。ラブリーが行っている事業が悪いと指摘するのが目的ではなく、変えていこう、増やしていこうということ。では3つの案をまとめていく上で、ご意見いただく。

荒川委員

先程、出口戦略に対する仕組みと言われたが、これは理念の中に入るのでは。戦略も含めて最終的にはどういう目標にするかということと思う。

中脇委員

理念を高く評価するのであれば、最初に言った行動評価を入れないと惜しい。

来村委員

図表も付けるが文章で評価していくのですよね。だから文章で訴えかければよいと思う。

末延委員長

今後の作業は領域が決まった後、設問を考えこれを文章化していく。

荒川委員

認知がCグループで比較的低かったが、高く評価されていた。何か調査しないと。

荒川委員

創造性と創造発信事業が◎になって高い評価になっているが、市民全体に対する認知なのか、やった人に対する認知なのかで変わる。認知と考えるべき時は市民全体かなという話をした。どういう観点で◎を付けたのか。

水落委員

市民に向けてというのもあるが河内長野市としてブランド力があるかで加味をした。

中脇委員

継続され、集客数はあるのでホールに行ったことはないが、知っているというのは高いと思う。

宝楽委員

僕たちのテーブルでは、満足度が客としたとき認知は認識されている度合いで、認識度として評価したほうがいいのではないかと話した。アンケートとして評価するのか、河内長野市のブランド力として認識力を評価するのが満足と認知の両方に重複する気がする。満足度というのはやはり分母は客ではないかと話した。

中脇委員

恐らく満足は客、認知は一般市民という感じと思う。

中脇委員

認知については、まちかどアンケートではかなり下がる気がする。

宝楽委員

20周年記念式典でホールに約半数しか入っていないと考えたときに、ホールの認識度はまだまだ。知っていて行かないのもあるが、皆知らないのではないかという意見も出た。

中脇委員

認知をどうするか。認知を上げようとすればするほどホール事業に特化していかないと

いけない。文化施設の現場で見ていると、自分に興味のない、関係がない組織が何をしているかは知らないし気にしたこともない。

中脇委員

認知されていないということで駄目になるなら、目先があるところのほうを充実させていく。特に我々のテーブルは教育福祉の意見が高かったので、そちらに回していくほうがいいのではないかと思う。満足度が上がっていて集客数が上がっていたら、それで良いと思う。

栗本委員

満足というのは一般的には客だが、参加する人、例えばミュージカルに参加した子供たちやその親御さん、ロビー事業に参加した一般市民の方々がこのホールを使って何か自分の表現ができ満足したかというところでもホールらしい満足の評価が出るのでは。

宝楽委員

先程も言っていたアウトリーチを実施し芸術家育成し、アウトプットまで意識するというプロセスを作っていく仕組みのところも、プロセス評価なら満足度が上がるという事だと思う。

来村委員

いずれにしても何らかのアンケート調査が必要と思う。議論していることはアンケートの作り方に絡んでくると思う。あるいは誰を対象とするかなど。これは次の段階で。

末延委員長

そうですね。文章化してから検討しましょう。

来村委員

会場アンケートはラブリーホールでやってもらえると思うが、まちかどアンケートは実際にとれますか。

東畑主査

無作為抽出で市民に向けて文化振興施策に対して設問毎に関心の割合を把握するアンケートを、計画の改定の為のひとつの資料として予定しています。

来村委員

そこにホールの話とかは。

東畑主査

その項目も含めて検討していきたいと思います。

井上課長

これまでもラブリーホールを事業ではなくホールとして利用したことがあるか、あるいはホールを知っているかを何度もとっています。うちの施設の中では最も高い認知がされています。

来村委員

最新の数値は？

井上課長

昨年で 40 数パーセント。

来村委員

では、それを使えば。

荒川委員

その調査は市民の無作為抽出か。

井上課長

はい。

来村委員

そのアンケートはラブリーホールに対するものではなく、これ以後の計画に対する市民アンケートということですよ。

東畑主査

その参考にさせてもらうアンケートです。

宝楽委員

現計画を策定する際に調査はしているのか。

井上課長

実施しています。市民アンケートは資料提供させていただきます。

来村委員

次回、評価するときをお願いします。教育、福祉について、学校がホールを使ったというだけでなく、何回申し込んだかという細かい資料は提供できるか。

井上課長

財団のほうに抽出させれば可能と思います。

来村委員

福祉・生涯学習も含めて、ホールがこういうところで使われているという資料があればある程度は数値化できると思う。

井上課長

福祉・生涯学習については、これまで積極的な取り組みができていなかったが、昨年からアウトリーチも福祉施設へ出かけ、生涯学習という観点から図書館・キックス・ラブリーが一体となって連携のもとで講座を開くようになりました。

安福委員

くろまる塾との関係はどうなっているか。

井上課長

くろまる塾は基本キックスで実施しており、ラブリーホールで何か講座する時にくろまる塾の認定をしていることはあるが、ラブリーホールとくろまる塾が強い接点を持っているということではありません。

井上課長

くろまる塾企画のものをラブリーで実施したものはないです。

末延委員長

他にご意見等あるか。次回、設問を設定し文章化して評価という流れでよいか。

中協委員

この評価軸はラブリーホール以外のところにも着手されるのですか？

末延委員長

今回はラブリーホールに対して行う。

宝楽委員

他市との比較はした方がいいのでは。

末延委員長

特に近隣のサヤカホールやすばるホールは同時期に設立されたので、そのデータは用意できますか？

井上課長

他市のデータ集計は難しいです。抽出しようと思えば労力を伴います。

宝楽委員

それは事務局がヒアリングに行くなりアンケート調査として送るなりしたほうがいい。

井上課長

それはできるが協力してもらえるかは分らないです。

来村委員

逆に連携していただいたほうがよいのでは。

宝楽委員

最先端の指標だと思うので、これを標準化し皆で使おうという形にもっていく方がいい。

中協委員

確実に人口減が加速しているので、アウトリーチ事業や老朽化が進んだ時の改築の負担などが問題になる。その後の限られた市民力を後押しするような評価軸を考えておかないといけない。河内長野市は近隣の中でも危機感を持つべき自治体なので、文化事業だけでなく総合的に捉えたほうがいい。あとは現場にいる若者が動きやすい制度や考え方が必要と思う。

来村委員

ラブリーホールに対する評価を 7 月に一度するということですね。ラブリーホールに対する評価を実験としてみるのか、帰着点としてみるのか。

末延委員長

まずラブリーホールで実施し、その領域や設問が市民に向いているかどうか、あるいは新たに加えなければならぬかが浮かび上がってから、ステップを踏んでやっていきたい。

末延委員長

では次回、設問の文章化、及び評価です。今日はこれで終わりたいと思います。

東畑主査

次回の会議は 5 月を予定しております。また皆様方にメールでスケジュールを教えてください。いただいた上で調整させていただきますのでよろしくお願いいたします。決まり次第ご連絡させ

いただきます。